

C—51 接着芯地を使用した表地の剛軟度とその支配要因について(第1報)

川村短大 ○安盛 都子
山梨県立女短大 白銀 啓子
川村短大 田中 愛子

1. 衣料用接着芯地は、従来の芯地とちがって、熱可溶性芯地であるため、接着後の表地の風合、特性への影響が大である。この要因は、①表地の種類 ②芯地に用いられる基布の種類 ③接着樹脂のもつ条件 ④接着条件等の複雑な因子の相互関連によるものと考えられるが、今回は、表地自身の性質が、一定の接着芯地を使用することによって、どのような形で接着後の風合い、特性へ影響がおよぼされるかを総括的に検討した。

2. 試料として表地は、毛織物(ジョーゼット、ウーステッド、ツイード、ジャージィ)木綿(コーデュロイ、スエード)の6種類を用いた。接着芯地は、パイリーン PD 301 を使用し、適正な接着条件で全自動プレス機により接着した。表地および芯地を接着した布地のそれぞれを、たて地方向、よこ地方向、ななめ方向(45°、30°)についての剛軟度の測定をおこなった。素材自身のもつ性質を調査分類し、剛軟性に対しての関連性が、どのようになっているかを考察した。

3. 各素材に対し、接着後は接着前より10%内外の硬化がみとめられた。更に布目方向別には、①たて地方向および30°パイヤス方向について接着前と接着後では、値に大きな変化はみとめられない。②よこ地方向とパイヤス方向は、木綿より毛織物に大きな値の変化がみられる。表地のもつ諸条件の分類調査から、むしろ表地の性質より芯地のもつ条件に左右される場合が多いと思われる。